

頑張る企業を応援します！

中小企業応援団

愛知県信用保証協会 × 中部経済新聞



掲載日 2021年2月18日

株式会社 SRT

顧客も環境も、町工場だからこそできることを

工業用切削工具の製造販売、レンタルを手掛ける株式会社SRT。小回りの良さと“匠”の技術で顧客の信頼を得ている。今、注力しているのは「廃液ゼロ」を目指す第3の切削液の販売。代表者の蜂須賀貢治氏に町工場の未来図を聞いた。

Company Data

社名：株式会社 SRT

代表者：蜂須賀 貢治

住所：西尾市法光寺町住崎山 17-1

電話：0563-65-2557

URL：<https://srtjapan.com/>

紹介金融機関：愛知県中央信用組合



便利だと思う製品を届けるために

当社は2016年、工業用切削工具の製造販売とレンタルを目的に設立しました。私は、金属部品の製造販売を手掛ける(株)菊鉄工の社長も務めており、製造現場において「もっとこうしたら便利になるのに」と思うことが度々ありました。例えば、製造業にとって必需品である「工具」は、消耗が激しいため、常に多くの在庫を持たなければならず、ランニングコストや在庫管理などが大きな負担になります。製造現場におけるそうした負担を軽減し、「あったらいいな」を事業化したのが(株)SRTです。製造業ならではのソリューションで、徹底した顧客視点での「便利」を追求しています。

置き薬方式で顧客のかゆいところに手を伸ばす 後発だからこそ“強み”を

社名のSRTはスーパー・レンタル・ツールの頭文字から取りました。

「レンタル」は、当社の特長の一つ「置き薬式方式」のレンタルシステムを意味します。工

具の在庫を持つ負担を軽減するため、必要な時に使った分を精算できたら便利なのに、と思い、「置き薬方式」のレンタルシステムを実現させました。このシステムは、初期費用0円で利用が可能です。レンタル先が希望する数量の工具を置き、毎週在庫を確認し、使った分だけのレンタル料金を請求する後払い方式です。レンタル先は、在庫を持つことなく必要なときに使用できるため、棚卸しや調達も必要ありません。事務負担が緩和され、余分な費用も発生しない、「効率的かつ経済的」なところが強みです。

もう一つの強みは「短納期」です。一般的に特注の工具は、発注から納品までに一ヶ月必要ですが、当社は2週間半程度での納品を可能にしています。顧客の利便性と差別化を追求した結果です。実現には確かな技術力とお客様が喜ぶことをやろうという思いが必要で、当社では、顧客に感動を与えられる工具を提供したいと、社員一人ひとりがこだわりを見つけ、“匠”を目指して製品づくりに取り組んでいます。

今期はコロナ禍で苦戦していますが、中でも一番気を配っているのはやはり顧客への対応です。自社の感染予防が必須ですので、マスク不足の際にも四方八方手を尽くして社員分のマスクを確保しました。また、顧客側の対応も様々で、非対面を希望される場合は電話や郵送で対応していますが、中小企業では来てほしいというところも多く、そうした場合は消毒など感染防止対策を徹底し、顧客に迷惑をかけないよう慎重に対応しています。

廃液ゼロを目指して SDGsに取り組む

製造業として環境問題にどう取り組むか、ずっと考えていました。

当社は切削工具を販売・レンタルしていますが、工具を使用する現場では切削作業時の発熱を抑えるため冷却水（クーラント）を使います。専用の油に水道水、切削添加剤を加えたものを使うのが一般的ですが、冷却工程で水と油に分離しきれず廃液となってしまいます。

また、水道水の温度管理によっては細菌が発生し、腐敗臭が作業場に広がり作業環境を悪化させるなど、廃液は人体にも環境にも悪く、処理コストもかかり、腐敗時には清掃も必要となるなど多くの問題がありました。



この問題に向き合っていかなければ、と思っていた時、兵庫県で廃液ゼロを目指す人と出会いました。その人の会社が開発した冷却水では、アルカリ電解水と専用の添加剤を使うことで、細菌の発生を抑え、また水と油への分離を可能とし、廃油としてのリサイクルを実現しました。これが「第3の切削液」です。従来の方法に比べ初期コストは高くなりますが、廃液処理や清掃にかかるコストが削減され、工具の消耗も低減でき、環境保全と共にトータルコストの削減ができます。

西尾に生まれ、西尾で育つ

信用は「顧客のために働く」から生まれ、成長の糧になる

私の大切にしていることばは「信用」です。

菊鉄工の話ですが、バブル崩壊後の荒波の中、生き残るため来る仕事は全て受け、徹夜してでも納期を守ってきました。それが信用につながり、また次の仕事がある。その繰り返しで会社は成長してきました。

2003年、現在の工場に移転した後も「信用」を糧に成長させてもらいました。最近、働き方改革に取り組み、二交代制導入など従業員の負担軽減と設備の効率的な活用も進めてきましたが、それでも工場が手狭となってきたので、今、移転に向けた準備を進めています。

移転先も西尾市内の予定です。西尾で生まれ西尾で育ててもらってきたからこそ、この土地を誇りとして「あの西尾の有名な……」と言われるような会社に成長させるのが私の夢です。

